

オタク書誌 増補 (抄)

佐々木 隆

※この書誌は「オタク書誌 (抄)」(『ポップカルチャー・若者文化研究』第6号、2021年6月)を増補したものである。「オタク書誌 (抄)」ではオタク文化・オタク研究の218文献、[参考1]では7文献、[参考2]ではトンデモ本シリーズとして15文献を取り上げた。今回は合計でオタク文化・オタク研究で276文献、[参考1]で12文献、[参考2]では15文献そのままに、新たに[参考3]を設けて10文献と[参考4]を設けて11資料を取り上げ、増補した。

- 001 中森明夫『『おたく』の研究(1) 街には『おたく』がいっぱい』
(6月号)、『『おたく』の研究(2) 『おたく』も人並みに恋をする?』(7月号)、『『おたく』の研究 おたく地帯に迷い込んだで』(8月号)、『漫画ブリッコ』、
6月～8月号、セルフ出版/発売:日正堂、1983年6月～8月
→ 『おたくの本』、別冊宝島104号、JICC出版局、1989年12月
→ <https://www.burikko.net/people/otaku01.html>
<https://www.burikko.net/people/otaku02.html>
<https://www.burikko.net/people/otaku03.html>
- 002 大塚英志『物語消費論—「ビックリマン」の神話学』、新曜社、1989年5月
- 003 『おたくの本』、別冊宝島104号、JICC出版局、1989年12月
→ 別冊宝島編集部編『「おたく」の誕生!!』、宝島社、2000年3月
- 004 太田出版編集部編『Mの世代—ぼくらとミヤザキ君』、太田出版、1989年12月
- 005 泉麻人「おたくベスト10」、『POPEYE』、1990年6月6日号、マガジンハウス
- 006 渡辺利博・タラコプロダクション『おたく玉』、太田出版、1990年7月
- 007 粉川哲夫『『おたく族』がメディアを変える—『現実』を『模写』する時代は終わる』、
『エコノミスト』、第69巻第2号、毎日新聞社、1991年1月
- 008 中島梓『コミュニケーション不全症候群』、筑摩書房、1991年8月
- 009 浅羽通明『天使の王国—「おたく」の倫理のため』、JICC出版局、1991年8月
- 010 宅八郎『イカす!おたく天国』、太田出版、1991年9月
- 011 広田恵介・目黒譲二『オタクライフ』、データハウス、1992年1月
- 012 アクロス編集室編『ポップ・コミュニケーション全書—カルトからカラオケまでニッポン [新]現象を解明する』、PARCO出版、1992年7月
- 013 コスモヒルズ『クイズ・パズルの遊園地—もっと深く、もっと楽しく<在宅オタク編>』ベストセラーズ、1992年7月
- 014 Annalee Newitz “Anime Otaku: Japanese Animation Fans Outside Japan”.
Bad Subjects, Issue# 13, April 1994.
→ <http://www1.udel.edu/History-old/figal/Hist372/Materials/animeotaku.pdf>

- 015 小川博司『『おたく』現象とは何だったのか』、林進他『メディア社会の現在』、学文社、1994年4月
- 016 田代順「性同一性、性役割の獲得・形成過程と『おたく』現象—男性学に向けてのひとつの視座」、『家政研究』第26巻、文教大学女子短期大学部家政科、1995年1月
- 017 大澤真幸「付録 オタク論」、『電子メディア論—身体のメディア的変容』、新曜社、1995年6月
- 018 岡田斗司夫「日本に恋する米国のオタク」、『AERA』朝日新聞社、1995年10月
- 019 辻大介「若者におけるコミュニケーション様式変化—若者語のポストモダダニティー」、『東京大学社会情報研究所紀要』、第51号、東京大学社会情報研究所、1996年3月
- 020 岡田斗司夫「オタク学開講宣言」、『AERA』、朝日新聞社、1996年3月25日号
- 021 岡田斗司夫『オタク学入門』太田出版、1996年5月
→ 岡田斗司夫『オタク学入門』、新潮社、2008年4月
- 022 Mark Schilling. *The Encyclopedia of Japanese Pop Culture*. Weatherhill, 1997
- 023 岡田斗司夫「新『オタク文化』講座」、清水均編『現代用語の基礎知識』、自由国民社、1997年1月
- 024 岡田斗司夫他『オタクアミーゴス!』、ソフトバンククリエイティブ、1997年3月
- 025 岡田斗司夫・山本弘・田中公平『史上最強のオタク座談会 封印』、音楽専科社、1997年4月
- 026 ぼにーてーる編『インター・オタク・ネット』、ダイヤモンド社、1997年5月
- 027 『ニューズウィーク日本版』、特集：オタクの世界からメジャーへ、1997年7月
- 028 スタジオ・ハード編『電脳オタクページ』、ゼスト、1997年7月
- 029 おたつきい佐々木『フッ完全おたくマニュアル』、ワニブックス、1997年8月
- 030 間庭充『若者犯罪の社会文化史』、有斐閣、1997年8月
- 031 糸山敏和「宮崎アニメと『おたくアニメ』—『美少女』になれなかった美少女たちのために」、『ユリイカ』、特集：宮崎駿の世界、第29巻第11号、青土社、1997年8月
- 032 大塚英志・上野俊哉「サブカルおたくはなぜ保守と結びついたか」、『インパクション』、特集：現代・新・保守論壇を読む、第106巻、インパクト出版会、1998年1月
- 033 宇田川岳夫『フリンジ・カルチャー—周辺のオタク文化の誕生と展開』、水声社、1998年4月
- 034 稲増竜夫『『おたく』から広がる新カルチャ』、『This is 読売』、第9巻第1号、読売新聞社、1998年4月
- 035 大塚英志「世界に冠たる"おたく文化"」、『Voice』、第245巻、PHP研究所、1998年5月
- 036 岡田斗司夫編『国際おたく大学』、光文社、1998年7月
- 037 石井久雄『『おたく』のコスモロジー』、『日本教育学会大会研究発表要項』、第57号、日本教育学会、1998年8月

- 038 圓田浩二「オタク的コミュニケーション「普通っぽい」アイドルと三つの距離」、『ソシオロジ』、第43巻第2号、社会学研究会、1998年10月
- 039 西垣通『メディアの森—オタク嫌いのたわごと』、朝日新聞出版、1998年10月
- 040 岡田斗司夫『オタクの迷い道』、文藝春秋、1999年3月
- 041 唐沢俊一・志水一夫『トンデモ創世記2000—オタク文化の行方を語る』、イーハトーヴ、1999年8月
- 042 岡田斗司夫・田中公平・山本弘『史上最強のオタク座談会 封印』、音楽専科社、1999年8月
- 043 大森望「SW おたくたちのSW 狂騒曲（『スター・ウォーズ』とジョージ・ルーカス）」、『文芸』、第38巻別冊、河出書房新社、1999年8月
- 044 Sharon Kinsella. *Adult Manga: Culture & Power in Contemporary Japanese Society*. Routledge, 2000
- 045 稲増龍夫『『カリスマ』とは『おたく』である!』、『潮』、第492巻、潮出版社、2000年2月
- 046 斎藤環『戦闘美少女の精神分析』、太田出版、2000年4月
→Saito Tamaki. J. Keith Vincent and Dawn Lawson, translators. *Beautiful Fighting Girl*. University of Minnesota Press, 2011)
- 047 岡田斗司夫・山本弘・田中公平『史上最強のオタク座談会2 回収』、音楽専科社、2000年4月
- 048 エチンヌ・バラール／新島進訳『オタク・ジャポニカ』、河出書房新社、2000年5月
- 049 岡田斗司夫・山本弘・田中公平『史上最強のオタク座談会3 絶版』、音楽専科社、2000年7月
- 050 太田啓之「オタクの悲劇」、『AERA』、第13巻第45号、朝日新聞社、2000年10月
- 051 片桐雅隆『自己の構築と「語り」の変遷』博士論文、早稲田大学、2000年11月
「第5章 日本における自己の「語り」変遷・人間類型の変遷をとおして」のうち「4節 新人類やオタクと他者の縮小」
- 052 西井一夫編『社会主義の終焉 オタクの時代1989』、毎日新聞社、2000年12月
- 053 岡田斗司夫・山本弘他『空前絶後のオタク座談会1 ヨイコ』、音楽専科社、2001年5月
- 054 大塚英志・東浩紀「特別対談 批評とおたくとポストモダン 大塚英志×東浩紀」、『小説 tripper』、(2001 夏季)、朝日新聞出版、2001年6月
- 055 大塚英志『底本物語消費論』、角川書店、2001年10月
- 056 東浩紀『動物化するポストモダン—オタクから見た日本社会』講談社、2001年11月
→Azuma Hiroki. Jonathan E. Abel and Kono Shion, translators. *Otaku: Japan's Database Animals*. University of Minnesota Press, 2009.
- 057 岡田斗司夫・山本弘他『空前絶後のオタク座談会2 ナカヨシ』、音楽専科社、2002年2月
- 058 岡田斗司夫・山本弘他『空前絶後のオタク座談会3 メバエ』、音楽専科社、2002

年 10 月

- 059 東浩紀他『網状言論 F 改—ポストモダン・オタク・セクシュアリティ』、青土社、
2003 年 1 月
- 060 森川嘉一郎『趣都の誕生 萌える都市アキハバラ』、幻冬舎、2003 年 2 月
- 061 鶴岡法斎編著『日本オタク大賞』、扶桑社、2003 年 4 月
- 062 ヨコタ村上孝之「B バージンと欲望の地政学—付・オタクについて」、大阪大学言語
文学部・大阪大学大学院言語文化研究科編『現代社会における消費文化の構造と生
成』、大阪大学言語学部、2003 年 4 月
- 063 「SOCIETY 日本文化 オタクビジネス、世界へ発進」、『Newsweek』、第 18 巻第 23
号、CCC メディアハウス、2003 年 6 月
- 064 永江朗『平らな時代—おたくな日本のスーパーフラット』、原書房、2003 年 9 月
- 065 村瀬ひろみ「オタクというオーディエンス」、小林直毅・毛利嘉孝編『テレビはどう
見られてきたのか—テレビ・オーディエンスのいる風景』、新教出版社、2003 年
11 月
- 066 「オタク文化、秋葉原変えた。電腦街からアニメ・ゲームなど趣味の街へ」、『日本経
済新聞』、2003 年 11 月 8 日、日本経済新聞社
- 067 Marc Steinberg “Otaku consumption, superflat art and the return to Edo” (*Japan
Forum*, Volume 16, no.3, Taylor & Francis, November 2004)
- 068 大塚英志『「おたく」の精神史—1980 年代論』、講談社、2004 年 2 月
- 069 畑田智章「オタク・アニメ・村上隆—『スーパーフラット』を巡って」、『年報人間
科学』、第 25 巻、大阪大学大学院人間科学研究科社会学・人間学・人類学研究室、
2004 年 3 月
- 070 阿島俊『漫画同人誌エトセトラ'82~'98—状況論とレビューで読むおたく史』、久保
書店、2004 年 8 月
- 071 相田美穂「現代日本におけるコミュニケーションの変容—おたくという社会現象を
通して」、『広島修大論集』人文編、第 45 巻第 1 号、広島修道大学、2004 年 9 月
- 072 国際交流基金／森川嘉一郎編『おたく：人格＝空間＝都市』、幻冬舎、2004 年 9 月
- 073 大塚英志『物語消滅論—キャラクター化する『私』イデオロギー化する物語』、角川
書店、2004 年 10 月
- 074 Marc Steinberg “Otaku consumption, superflat art and the return to Edo”(Japan
Forum, Volume 16, no.3, Taylor & Francis, November 2004)
- 075 長山靖生『おたくの本懐』、筑摩書房、2005 年 1 月
- 076 村上隆編『リトルボーイ 爆発する日本のサブカルチャー・アート』、ジャパン・ソ
サエティ—イェール大学出版、2005 年 3 月
- 077 稲葉振一郎『オタクの遺伝子—長谷川裕一・SF まんがの世界』、太田出版社、2005
年 3 月
- 078 本田透『電波男』三オブックス、2005 年 3 月
- 079 斎藤環「おたくのセクシュアリティ 精神分析的視点から」、『人間存在』第 11 号、

- 京都大学大学院人間・環境学研究科大学院地球環境学堂、2005年3月)
- 080 村上隆『『脱力』に宿る芸術の力 おたくの起源たどる『リトルボーイ』展 NYで異例のヒット』、『朝日新聞』、2005年5月16日夕刊、第4面
- 081 『『アキバくん』とはまったく違う分野に存在する女性オタク(女オタク 萌える 女オタク)』、『Aera』、第18巻第32号、朝日新聞出版、2005年6月
- 082 守岡太郎「オタクの消費行動から市場の先を読む オタク市場マーケティング」、『Think!』第14号、東洋経済新報社、2005年7月
- 083 『ユリイカ』、総特集『オタクVSサブカル!』、第37巻第9号、青土社、2005年8月
- 084 相田美穂「おたくをめぐる言説の構成：1983年～2005年サブカルチャー史」、『広島修大論集』、人文編、第46巻第1号、広島修道大学、2005年9月
- 085 野村総合研究所オタク市場予想チーム『オタク市場の研究』、東洋経済新報社、2005年10月
- 086 ササキバラ・ゴウ編『「戦時下」のおたく』、角川書店、2005年10月
- 087 難波功士「戦後ユース・サブカルチャーズをめぐる(4)：おたく族と渋谷系」、『関西学院大学社会学部紀要』、第99号、関西学院大学社会学部研究会、2005年11月
- 088 オタク文化研究会『オタク用語の基礎知識』、マガジン・ファイブ、2006年3月
- 089 杉浦由美子『オタク女子研究—腐女子思想大系』、原書房、2006年3月
- 090 大澤真幸「オタクという謎」、『フォーラム現代社会学』、第5号、関西社会学会、2006年5月
- 091 森川嘉一郎・三浦展「オタクと高速道路」、三浦展『「自由な時代」の「不安な自分」—消費社会の脱神話化—』、晶文社、2006年6月
- 092 宮沢章夫『「80年代地下文化論」講義』、白夜書房、2006年7月
→ 『東京大学「80年代地下文化論」講義 決定版』、河出書房新社、2015年11月
- 093 牟田武生『ジャパंकール 団塊世代と若者・二つの世代が作りあげる新しいコラボレーション』、三松株式会社出版事業部、2006年8月
- 094 堀淵清治『萌えるアメリカ』、日経BP社、2006年8月
- 095 パトリック・マシアス／町山智浩訳『オタク・イン・USA—愛と誤解のAnime輸入史』、太田出版、2006年9月
- 096 「オタク文化の大攻勢 アニメ・お笑い・スシ今ニッポンがかっこいい!」、『週刊ダイヤモンド』、特集：ジョーク集より面白い 世界が見た日本、第94巻第43号、ダイヤモンド社、2006年11月
- 097 井上努『『楽しさ』としての観光経験の表象に関する考察』、『日本観光研究学会第21回全国大会論文集』日本観光研究学会、2006年12月
- 098 Ken Gelder. *Subcultures: Cultural histories and social practice*. Routledge, 2007
- 099 神澤孝宣「二極化するキャラクター消費」、『宝塚造形芸術大学紀要』第20号、宝塚

- 造形芸術大学、2007年3月
- 100 歐陽宇亮『『オタク』とは何か—オタク文化の多様性とオタク・イメージの貧困性との矛盾を切り口にして』、『おたくのダイバーシティ サブカル・ポップマガジン まぐま』Volume15、Studio Zero／蒼天社、2007年3月
 - 101 井上努「旅行経験に基づく〈観光オタク〉の創作活動と表象」、『立教観光研究紀要』第9号、立教大学大学院観光学研究科『立教観光研究紀要』(SAT)編集委員会、2007年3月
 - 102 小山昌宏「図解オタクの形態考(おたくの多様性(ダイバーシティ))」、『まぐま』、第15号、蒼天社、2007年3月
 - 103 Joseph Britton “Japan-Otacool Nation Trends of Japanese Otaku Youth”、『大阪府立大学総合科学部言語センター論文集』第6巻、大阪府立大学総合科学部言語センター、2007年3月
 - 104 東浩紀『ゲーム的リアリズムの誕生 動物化するポストモダン2』、講談社、2007年3月
 - 105 岡田斗司夫・唐沢俊一『オタク論!』、創出版、2007年4月
 - 106 清谷信一「8万人動員!世界最大規模のイベント開催『オタク文化』はなぜこんなにフランスで隆盛なのか」、『創』第37巻第9号、創出版、2007年8月
 - 107 檜村愛子「日本の『オタク文化』はなぜ世界的なものとなったのか」、『文學論叢』、第136巻、愛知大学文学會、2007年9月
 - 108 竹熊健太郎・伊藤剛・森川嘉一郎「オタク文化の現在(7) 座談会 オタク・サブカル・サブカルチャー」、『ちくま』通号438号、2007年9月
 - 109 歌田明弘「日本的なインターネット文化の誕生をめぐる」、生井英考・荒このみ編『文化の受容と変貌』、ミネルヴァ書房、2007年11月
 - 110 『2008 オタク産業白書』、株式会社メディアクリエイト、2007年12月
 - 111 ヒロヤス・カイ『オタクの考察』、シーアンドアール研究所、2008年2月
 - 112 岡田斗司夫『オタクはすでに死んでいる』、新潮社、2008年4月
 - 113 杉浦由美子『かくれオタク 9割—ほとんどの女子がオタクになった』、PHP研究所、2008年4月
 - 114 森永卓郎・岡田斗司夫『オタクに未来はあるのか!?!—「巨大循環経済」の住人たちへ』、PHP研究所、2008年5月
 - 115 大塚英志・東浩紀『リアルなゆくえ—おたく／オタクはどう生きるか』、講談社、2008年8月
 - 116 Azuma Hiroki. Jonathan E. Abel and Kono Shion, translators. *Otaku: Japan's Database Animals*. University of Minnesota Press, 2009.
→ 東浩紀『動物化するポストモダン—オタクから見た日本社会』、講談社、2001年11月
 - 117 早川清他編著『メイド喫茶で会いましょう』、アールズ出版、2008年9月
 - 118 大塚英志・東浩紀『リアルなゆくえ』、講談社、2008年8月

- 119 江藤茂博『オタク文化と蔓延する「ニセモノ」ビジネス』、戎光祥出版、2008年10月
- 120 松谷創一郎「<オタク問題>の四半世紀」、羽渕一代編『どこか<問題化>される若者たち』、恒星社厚生閣、2008年10月
- 121 『國文学』、特集：「萌え」の正体、第53巻第16号、學燈社、2008年11月
- 122 菊池聡『『おたく』ステレオタイプの変遷と秋葉原ブランド』、地域ブランド研究会編『地域ブランド研究』、第4号、地域ブランド研究会、2008年12月
- 123 Renato Rivera “The Otaku in Transition”、『京都精華大学紀要』、第35号、京都精華大学、2009年1月
- 124 清谷信一『ル・オタク フランスおたく物語』、講談社、2009年1月
- 125 吉本たいまつ『おたくの起源』、NTT出版、2009年2月
- 126 田川隆博「オタク分析の方向性」、『名古屋文理大学紀要』、第9号、名古屋文理大学、2009年3月
- 127 山中智省『『おたく』誕生—『漫画ブリッコ』の言説力学を中心に—』、『横浜国大 国語研究』、第27号、横浜国立大学国語・日本語教育学会、2009年3月
- 128 金田一「乙彦・編『オタク語事典』、美術出版社、2009年5月
- 129 藤原実『知ってるだけで恥ずかしい現代オタク用語の基礎知識』、ディスカヴァー・トゥエンティワン、2009年5月
- 130 伊吹山四郎『オタクの誕生 60年前のアメリカ留学』文芸社、2009年5月
- 131 榎本秋編『オタクの面白いほどわかる本』、中経出版、2009年6月
- 132 『まほら』、特集：オタクツーリズム、第60号、旅の文化研究所、2009年7月
- 133 菊地成孔・大谷能生『アフロ・ディズニー エイゼンシュタインから「オタク＝黒人」まで』、文藝春秋、2009年8月
- 134 折原由梨「おたくの消費行動の先進性について」、『跡見学園女子大学マネジメント学部紀要』、第8号、跡見学園大学、2009年9月
- 135 Patrick W. Galbraith. *The Otaku Encyclopedia: An insider's guide to the subculture of Cool Japan.* Kodansha International, 2009
- 136 浅野智彦「コミュニケーションの失敗／自閉するアイデンティティ」、広田照幸監修／浅野智彦編著『リーディングス日本の教育と社会』、日本図書センター、2009年3月)
- 137 オタク開発委員会『リア充宣言』、遊タイム出版、2009年3月
- 138 柳享英『OTACOO WORLD OTAKU ROOMS』、壽屋、2009年10月
- 139 William M. Tsutsui. *Japanese Popular Culture and Globalization.* Association for Asian Studies, Inc., 2010
- 140 Héctor García. *A Geek in Japan.* Tuttle Publishing, 2010
- 141 前島賢『セカイ系とは何か—ポスト・エヴァのオタク史』、ソフトバンククリエイティブ、2010年3月
- 142 長田進・鈴木彩乃「都市におけるオタク文化の位置付け」、『慶応義塾大学日吉紀要 社

- 会科学』、第 20 卷、慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会、2010 年 3 月
- 143 吉田健「映像ソフト売上に見るメディアの発展とオタクの関連についての一考察」、
『研究紀要』、常磐会学園大学、第 10 卷、2010 年 3 月
- 144 脇坂幸恵『幻根と幻蕾の精神“オタク”女性たちとなりきりメールについて』、博士論文、
大阪芸術大学、2010 年 3 月 23 日
- 145 斎藤環『博士の奇妙な成熟—サブカルチャーと社会精神病理』、日本評論社、2010 年
5 月
- 146 鏡裕之『非実在青少年論—オタクと資本主義』、愛育社、2010 年 6 月
- 147 ツルシカズヒコ『「週刊 SPA!」黄金伝説 1988~1995 おたくの時代を作った男』、
朝日新聞出版、2010 年 6 月
- 148 暮沢剛巳『キャラクター文化入門』、NTT 出版、2010 年 12 月
- 149 梶原健太郎・高木秀明『「おたく」の趣味についての一研究』、『横浜国立大学教育
科学部紀要』、1、教育科学、第 13 卷、2011 年 2 月
- 150 池田太臣「オタクの“消滅”~オタクイメージの変遷」、『女子学研究』第 1 号、甲南女
子大学女子学研究会、2011 年 3 月
- 151 安田誠『オタクのリアル—統計からみる毒男の人生設計』、幻冬舎、2011 年 3 月
- 152 出原健「相同性—『オタク文化』の場合」、『彦根論叢』、第 388 号、滋賀大学経済学
会、2011 年 6 月
- 153 浅野智彦『若者の気分—趣味縁からはじめる社会参加』、岩波書店、2011 年 6 月
- 154 佐々木隆「気になる言葉⑩ オタク/オタク文化」、『むらおさ』、第 14 号、むらおさ
同人会、2011 年 7 月
- 155 大倉韻「現代日本における若年男性のセクシュアリティ形成について —『オタク』
男性へのインタビュー調査から」、『社会学論考』、第 32 卷、首都大学東京・都立
大学社会学研究会、2011 年 10 月
- 156 Patrick W. Galbraith. *Otaku Spaces*. Chin Music Press, 2012
- 157 辻泉「オタクたちの快樂」、小谷敏他編『<若者の現在>文化』、日本図書センター、
2012 年 3 月
- 158 Mizuko Ito, Daisuke Okabe, and Izumi Tsuji, editors. *Fandom Unbound:
Otaku Culture in a Connected World*. New Haven & London: Yale University
Press, 2012
→ 宮台真司監修/辻泉・岡部大介・伊藤瑞子編『オタク的想像力のリミット』(筑
摩書房、2014 年 3 月)
- 159 Patrick W. Galbraith. *Becoming-otaku: men, girls and movement in Akihabara*.
博士論文、東京大学、2012 年 3 月 22 日
→ 日本語タイトル『オタクへの生成変化：秋葉原における男性と少女のムーブ
メント』
- 160 佐々木隆「大学教育とオタク文化」、『比較文化史研究』、第 13 号、比較文化史学会、
2012 年 3 月

- 161 辻泉「オタクの快樂」、小谷敏他編『<若者の現在>文化』、日本図書センター、2012年3月
- 162 本郷和人「東大教授、おたく、駆け出しのファンとして…おたく文化を許容する国に咲いた大輪のひまわり」、『中央公論』、第127巻第6号、中央公論新社、2012年3月
- 163 別宮玲「本当にオタクはITに強いのか? : オタクレベル及びITレベルの設定と、その相関関係の研究」、『戸板女子短期大学研究年報』、第55巻、2012年1月
- 164 村上隆／美術手帖編『村上隆完全読本美術手帖記事1992-2012』、美術出版社、2012年6月
- 165 辻泉「アニメーション・マニア、オタクという幻想」、横田正夫・小田正志・池田宏編『アニメーションの事典』、朝倉書店、2012年7月
- 166 佐々木隆「気になる言葉⑬ オタク文化系の大学」、『むらさお』、第16号、むらおさ同人会、2012年7月
- 167 難波功士・濱野智史「"ヤンキー"と"オタク"について語り尽くす」、『宣伝会議』、第845号、宣伝会議、2012年9月
- 168 辻泉「オタクの現在を考える」、『青少年問題』、第59巻、秋季、第648号、一般財団法人青少年問題研究会、2012年10月
- 169 嶽本野ばら『もえいぬ—正しいオタクになるために』、集英社、2012年7月
- 170 佐々木隆『オタク文化論』、イーコン、2012年12月
- 171 大塚英志『物語消費論改』、アスキー・メディアワークス、2012年12月
- 172 鈴木隆之『「オタク」の履歴書—「オタク」の文化人類学研究のための試論—』、『政治学研究論集』、第37号、明治大学大学院、2013年2月
- 173 Bradley Joff Peter Norman “Is the Otaku Becoming Overman?”、『東洋大学人間科学総合研究所紀要』、第15巻、東洋大学人間科学総合研究所紀要編集委員会、2013年3月
- 174 田名部生来 監修・著『田名部生来のオタクカルチャー大全』、別冊タナブ島、宝島社、2013年6月
- 175 浅野智彦『「若者」とは誰か—アイデンティティの30年』、河出書房新社、2013年8月
- 176 寺尾幸紘『オタクの心をつかめ』、SBクリエイティブ、2013年10月
- 177 團康晃『「おたく」の概念分析—雑誌における「おたく」の使用の初期事例に着目して』、『ソシオロゴス』、第37号、ソシオロゴス、2013年10月
- 178 薄葉彬貢『世界アニメ・マンガ消費行動レポート』、薄山館、2014年1月
- 179 加藤裕康「若者論とオタク論の系譜」、『現代風俗学研究』、第15号、一般財団法人現代風俗研究会東京の会、2014年3月
- 180 和田崇「オタク文化の集積とオタクの参画を得たまちづくり—大阪・日本橋の事例」、『経済地理学年報』、第60巻第1号、経済地理学会、2014年3月
- 181 渡邊秀司「オタクの言説—外部との『緊張感』を考えるために—」、『佛教大学大学院

- 紀要 社会学研究科篇』、第 42 号、佛教大学大学院、2014 年 3 月
- 182 宮台真司監修／辻泉・岡部大介・伊藤瑞子編『オタク的想像リミット』、筑摩書房、2014 年 3 月
- 183 井上努「オタク文化の集積とオタクの参画を得たまちづくり：大阪・日本橋の事例」、『経済地理学年報』、第 60 巻第 1 号、経済地理学会、2014 年 3 月
- 184 池田太臣「オタク的コミュニケーションの悦楽：メイドグラフィティ in 大阪」、『女子学研究』、第 4 巻、甲南女子大学女子学研究会、2014 年 3 月
- 185 入江由規『「ゲスト」へと変貌したオタクたち—アニメ聖地巡礼者の交流から』、『フォーラム現代社会学』、第 13 巻、関西社会学会、2014 年 5 月
- 186 羽生雄毅「日本発祥の『オタク文化』がインターネットを席卷している」、『クーリエ・ジャポン』、第 115 巻、講談社、2014 年 6 月
- 187 熊代亨『融解するオタク・サブカル・ヤンキー ファスト風土適応論』、花伝社、2014 年 10 月
- 188 長山靖生『「世代」の正体』、河出書房新社、2014 年 12 月
- 189 藤原香「オタクをやめられない女性たち—オタクとしてのアイデンティティ形成とジェンダー」、『人間文化』、第 36 巻、神戸学院大学人文学会、2014 年 12 月
- 190 アライヒロユキ『オタ文化からサブカルへ』、織研新聞社、2015 年 1 月
- 191 Patrick W. Galbraith, Thiam Huat Kam, and Björn-Ole Kamm, editors.
Debating Otaku in Contemporary Japan. Bloomsbury, 2015
- 192 しめすへん『現代オタク論～萌えオタクの正体はマイルドヤンキーだった～』、Kindle、2015 年 2 月
- 193 永田大輔「コンテンツ消費におけるオタク文化の独自性の形成過程」、『ソシオロジ』、第 59 巻第 3 号、社会学研究会、2015 年 2 月
- 194 檀朋美『「関係的な生きづらさ」をオタクの人間関係から捉える試み—『コミュニケーション不全症候群』の視点から—』、『社会システム研究』、第 18 号、京都大学大学院人間・環境学研究科 社会システム研究刊行会、2015 年 3 月
- 195 今井信治『メディア空間における「場所」と共同性』：オタク文化をめぐる宗教社会学的研究』、博士論文、筑波大学、2015 年 3 月 25 日
→今井真治『オタク文化と宗教の臨界—情報・消費・場所をめぐる宗教社会学的研究』、晃洋書房、2018 年 3 月
- 196 『コンテンツ文化史研究』、第 9 号、特集：2011 年大会「オタク・ファン・マニア」(オタクである覚悟)、コンテンツ文化史学会、2015 年 8 月
- 197 原田曜平『新・オタク経済—3 兆円市場の地殻変動』、朝日新聞出版、2015 年 9 月
- 198 片瀬一男『若者の戦後史—軍国少年からロスジェネまで』、ミネルヴァ書房、2015 年 9 月
- 199 佐々木隆「TV 放送のオタク文化への影響」、『日欧比較文化研究』第 19 号、2015 年 10 月
- 200 宮沢章夫『東京大学「80 年代地下文化論」講義 決定版』、河出書房新社、2015 年

- 11月
- 201 菊地映輝「オタク化するお台場—文化装置の集積に注目して」、『現代風俗学研究』、2015年12月
- 202 羽生雄毅『OTAKU エリート—2020年にはアキバカルチャーが世界のビジネス常識になる』、講談社、2016年1月
- 203 Kascuk Zoltan. *From geek to otaku culture and back again*. 博士論文、京都精華大学、2016年3月21日
 ※別タイトル：オタク化するギーク、ギーク化するオタク：ハンガリーのプロデューサーから見たアニメ・マンガ文化の国際的普及およびサブカルチャー的クラスタの役割
- 204 中島渉・松原敏・中津野俊太・中村雅子「『迷惑行為』から見えるオタクの境界デザイン」、『東京都市大学横浜キャンパス情報メディアジャーナル』、第17号、東京都市大学環境情報学部情報メディアジャーナル編集委員会、2016年4月
- 205 山岡重行『腐女子の心理学—彼女たちはなぜBL（男性同性愛）を好むのか？』、福村書店、2016年6月
- 206 『オタク女子の活動記録』、ふゅーじょんぷろだくと、2016年7月
- 207 王男瀟「『オタク論』と系譜学」、『社会学雑誌』、第31・32号、神戸大学社会学研究会、2016年10月
- 208 五十嵐輝・小山友介「『おたく』的因子の抽出と『おたくステレオタイプ』の構造の検証—現代の『おたく』と『非おたく』（コンフリクトから見る社会・経済システム）」、『社会・経済システム』、第37巻、社会・経済システム学会、2016年10月
- 209 佐々木隆『ポップカルチャー論』、多生堂、2016年12月
- 210 西村青葉『オタクのための法学入門』、Ashikaga Records、2016年12月
- 211 Philip Seaton and Takayoshi Yamamura, editors. *Japanese Popular Culture and Contents Tourism*. Routledge, 2017
- 212 佐々木隆『今、ポップカルチャーが熱い！ otaku, kawaii, emoji も英語に！キャラクターだらけの日本！』、武蔵野学院大学佐々木隆研究室、2017年2月
- 213 ぺろりん先生『アイドルとヲタク大研究読本』、カンゼン、2017年2月
- 214 辻泉「オタクたちの変貌」、小谷敏編『21世紀の若者論』、世界思想社、2017年3月
- 215 王男瀟『オタク的なアイデンティティと欲望』、博士論文、神戸大学、2017年3月25日
- 216 北田暁大・解体研編『社会にとって趣味とは何か—文化社会学の方法規準』、河出書房新社、2017年3月
- 217 大泉実成『オタクとは何か？』、草思社、2017年4月
- 218 南隆太「AKBに観るヤンキー文化とオタク文化の接合関係について」、『応用語文学報』、第4号、国立臺中科技大学語文學院、2017年6月
- 219 株式会社ライブ編『二次元世界に強くなる現代オタクの基礎知識』、カンゼン、2017年7月

- 220 永田大輔『「オタクを論ずること」をめぐる批評的言論と社会学との距離に関して』、『年報社会学論集』、第 30 号、関東社会学会、2017 年 7 月
- 221 Howexpert Press and Jessica Roar. *Otaku 101: An Introductory Guide to Learning About the Otaku Pop Culture, Anime, Manga, and More!* Createspace Independent Pub, 2018
- 222 渡邊秀司『「優しい関係」の展開について—オタクを事例とした人間関係の考察にむけて—』、『佛大社会学』、第 42 卷、佛教大学社会学会、2018 年 2 月
- 223 牧野宏紀「学級内における対抗文化としての『オタク文化』」、『奈良大学大学院研究年報』、第 23 号、奈良大学大学院、2018 年 2 月
- 224 今井真治『オタク文化と宗教の臨界—情報・消費・場所をめぐる宗教社会学的研究』、晃洋書房、2018 年 3 月
- 225 佐々木隆『「広辞苑」(第七版)に見るポップカルチャーの台頭』、『比較文化史研究』第 19 号、比較文化史学会、2018 年 3 月
- 226 佐藤一毅「ラテンアメリカのポップカルチャー「オタク文化」による日本文化伝播」、『ラテンアメリカ時報』、特集：ラテンアメリカへの日本文化発信、第 61 巻第 2 号、ラテン・アメリカ協会、2019 年春
- 227 宇野常寛『若い読者のためのサブカルチャー論講義録』、朝日新聞出版、2018 年 3 月
- 228 岡本健『アニメ聖地巡礼の観光社会学—コンテンツツーリズムのメディア・コミュニケーション分析』、法律文化社、2018 年 9 月
- 229 平成オタク研究会編『図解 平成オタク 30 年史』、新紀元社、2018 年 10 月
- 230 佐々木隆『ポップカルチャーとオタク文化の微妙な関係』、武蔵野学院大学佐々木隆研究室、2018 年 10 月
- 231 中川右介『サブカル勃興史—すべては 1970 年代に始まった』、KADOKAWA、2018 年 11 月
- 232 山上尚彦・斎藤環・森田展彰・大谷保和「オタク的消費行動と心理不適應の関連の検討」、『アディクションと家族』、第 34 巻第 1 号、日本嗜癖行動学会、2018 年 12 月
- 233 Patrick W. Galbraith. *Otaku and the Struggle for Imagination in Japan.* Duke University Press Books, 2019.
- 234 松下戦具「広義化した『オタク』の整理—オタクファッションを考察するために」、『大阪樟蔭女子大学研究紀要』、第 9 巻、大阪樟蔭女子大学、2019 年 1 月
- 235 小林義寛『「文化 (the cultural)」の文脈化—あるいは雑種化と土着化—』、山本賢二・小川浩一編『国際コミュニケーションとメディア—東アジアの諸相—』、学文社、2019 年 3 月
- 236 コミケ Plus 編集部編『必訪東京オタク SPOT ガイド』、エックスワン、2019 年 3 月
- 237 浅野星奈「現代“オタク”事情—キャラクターを活用する地方自治体・博物館(パラダイム・シフト?—誰が、何が、変えている)」、『調査・情報』、第 3 期、第 547 号、TBS メディア総合研究所、2019 年 3 月

- 238 佐々木隆『ポップカルチャーとオタク文化の微妙な関係 増補版』、武蔵野学院大学
佐々木隆研究室、2019年5月
- 239 はちこ『中華オタク用語辞典』、文学通信、2019年6月
- 240 劇団雌猫『本業はオタクです。—シュミも楽しむあの人の仕事術』、中央公論新社、
2019年7月
- 241 菊地映輝「都市空間におけるサブカルチャーの政策的振興に関する研究—文化装置論
から見るコスプレ文化」、慶應義塾大学、2019年8月
- 242 ナリムラ『オタク女子池袋隠れ家ツアー』、ふゅーじょんぷろだくと、2019年8月
- 243 佐々木隆『書誌から見た「オタク」研究』、多生堂、2019年10月
- 244 中山淳雄『オタク経済圏創世記—GAFAの次は2.5次元コミュニティが世界の主役にな
る件』、日経BP社、2019年11月
- 245 山口晶子「オタク女子のグッズ交換に関する考察：Twitterでの「お取引引き」に着
目して」、『武蔵野大学教養教育リサーチセンター紀要』、第10巻、武蔵野大学教
養教育リサーチセンター、2020年3月
- 246 小牧瞳『「オタク力」を活かした学習モデルの提案：中学校数学の授業実践の事例か
ら』、『授業実践開発研究』、第13巻、千葉大学教育学部授業実践開発研究室、2020
年3月
- 247 張瑋容「日本のポップカルチャーとジェンダー研究—オタク文化を中心に」、『ジェン
ダー研究』、第22号、公益財団法人東海ジェンダー研究所、2020年2月
- 248 亀山康夫『オタク文化の専門研究機関の発足とその効果：世界オタク研究所の活動か
ら』、博士論文、慶應義塾大学、2020年3月23日
- 249 山田智之「オタクの職業観に関わる研究」、『上越教育大学研究紀要』第39巻第2号、
2020年3月
- 250 高田治樹・菊地学・尹成秀「オタクはどのような印象をもたれてるのか？—オタクカ
テゴリと印象との相互関連性の検討』、『目白大学心理学研究』、第16号、目白大
学、2020年3月
- 251 株式会社ライフ編『365日で知る現代オタクの教養』、カンゼン、2020年3月
- 252 佐々木隆『ポップカルチャーとオタク文化の微妙な関係 追加増補版』、武蔵野学院
大学佐々木隆研究室、2020年4月
- 253 沈美雪「台湾における日本サブカルチャーの受容と現在 —「オタク」の中国語訳語
とオタク文化の広がり』、『中国文化研究』、第36巻、天理大学国際文化学部中国
学科研究室、2020年7月
- 254 山岡重行編著『サブカルチャーの心理学—カウンターカルチャーから「オタク」「オ
タ』、福村出版、2020年8月
- 255 『ユリイカ』、第52巻第11号、特集：女オタクの現在：推しとわたし、青土社、2020
年9月
- 256 岡田努「鉄道オタクの心理学」、『運輸と経済』、特集：交通愛好者が育む市場、第80
巻第10号、交通経済研究所、2020年10月

- 257 小野晃典「運輸・交通を巡るオタク・プロファイリングと戦略的示唆」、『運輸と経済』、特集：交通愛好者が育む市場、第 80 巻第 10 号、交通経済研究所、2020 年 10 月
- 258 松島勝人「オタク市場における『鉄道』の存在感」、『運輸と経済』、特集：交通愛好者が育む市場、第 80 巻第 10 号、交通経済研究所、2020 年 10 月
- 259 Matt Alt. *Pure Invention: How Japan's Pop Culture Conquered the World.* Crown, 2020.
- 260 佐々木隆『ことばとオタク文化』、武蔵野学院大学佐々木隆研究室、2021 年 1 月
- 261 GIANNI SIMONE. *OTAKU JAPAN: The Fasinating world of Japanese Manga, Anime, Gaming, Cosply, Toys, Idoles and More!* チャールズ・イー・タトル出版 2021 年
- 262 松岡正剛『サブカルズ』、KADOKAWA、2021 年 1 月
- 263 山上尚彦・斎藤環・大谷保和・森田展彰「外向性・動機・消費類型に応じたオタクの幸福感の検討」、『アディクションと家族』、第 36 巻第 1 号、日本嗜癖行動学会、2021 年 1 月
- 264 浅野智彦『オタク文化とジェンダー』、『東京学芸大学紀要』（人文社会科学系 II）、第 72 巻、東京学芸大学教育実践研究推進本部、2021 年 1 月
- 265 大倉韻「オタク文化は、現在でも都市のものなのか」、木村絵里子他編『場所から問う若者文化』、大修館書店、2021 年 2 月
- 266 山上尚彦「オタク研究の方法論と留意点」、『江戸川大学紀要』、第 31 巻、江戸川大学、2021 年 3 月
- 267 山田智之「共感力がレジリエンスに与える影響～オタク自認者とオタク非自認者に着目して～」、『上越教育大学研究紀要』、第 40 巻第 2 号、上越教育大学、2021 年 3 月
- 268 岡田努「鉄道オタク青年の対人行動と自己に関する探索的検討」、『金沢大学人間科学系研究紀要』、第 13 巻、金沢大学人間社会研究域人間科学系、2021 年 3 月
- 269 渡邊秀司・長光太志「オタクの人付き合い 『自己責任』と『世間』」、『佛大社会学』、第 45 巻、佛教大学社会学研究会、2021 年 3 月
- 270 Baroody Ahmed. *Watching anime, doing gender : hegemonic masculinity, sexual modesty, and the gendered consumption practices and preferences of Kuwaiti anime fans.* 博士論文、同志社大学、2021 年 3 月
※別タイトル：アニメを見る、ジェンダーを行為する：ヘゲモニックな男性性、性的慎み、ジェンダー消費の実践とクウェート人アニメ・ファンの選択
- 271 佐々木隆『書誌から見た「オタク」研究 増補版』（前編）（中編）（後編）、多生堂、2021 年 5 月
※後編では「11 腐女子・BL・LGBTQ 研究」として 33 文献、「12 オタク・腐女子・LGTB の映画・ドラマ」として 31 作品を取り上げている。
- 272 細川怜椰・松村敦・宇陀則彦・堤智昭「PAC 分析を利用したオタクの「布教」に対する意識や態度についての研究」、『情報知識学会誌』、第 31 巻第 2 号、情報知識学会、

2021年5月

- 273 小川晶子『オタク偉人伝』アスコム、2021年6月
- 274 佐々木隆「オタク書誌(抄)」、『ポップカルチャー・若者文化研究』、第6号、ポップカルチャー・若者文化研究会、2021年6月
- 275 杉浦義典「こころとオタクの幸福感—3つの祝福」、『土木技術』、第76巻第6号、土木技術社、2021年6月
- 276 松浦優「二次元の性的表現による「現実性愛」の相対化の可能性：現実の他者へ性的に惹かれぬ「オタク」「腐女子」の語りを事例として」、『新社会学研究』、第5巻、新曜社、2021年7月

[参考1]

- 001 ヴェルナー・ゾンバルト／金森誠也訳『恋愛とぜいたくと資本主義』、至誠堂、1969年7月
→ Werner Sombart. *Liebe, Luxus und Kapitalismus* (1922)の翻訳。
→ 金森誠也訳『恋愛と贅沢と資本主義』(論創社、1987年7月)、金森誠也訳『恋愛と贅沢と資本主義』(講談社、2000年8月)もある。
- 002 稲村博『機械親和性対人困難症』、弘文堂、1986年7月
- 003 成田康昭『「高感度人間」を解説する』、講談社、1986年7月
- 004 岡田斗司夫『ぼくたちの洗脳社会』、朝日新聞社、1998年11月
- 005 オタク開発委員会『リア充宣言』、遊タイム出版、2009.3 <US53-J37>
- 006 斎藤環『博士の奇妙な成熟—サブカルチャーと社会精神病理』、日本評論社、2010年5月
- 007 初見健一『ぼくらの昭和オカルト大百科—70年代オカルトブーム再考』、大空出版、2012年11月
- 008 浅野智彦『若者の気分—趣味縁からはじめる社会参加』、岩波書店、2011年6月
- 009 斎藤美奈子他『1980年代』、河出書房新社、2016年2月
- 010 須川亜紀子・米村みゆき編『アニメーション文化55のキーワード』、世界文化シリーズ、ミネルヴァ書房、2019年4月
- 011 木村絵里子他編『場所から問う若者文化：ポストアーバン化時代の若者論』、晃洋書房、2021年3月
- 012 宮入恭平・杉山昂平編『「趣味に生きる」の文化論—シリアスレジャーから考える』、ナカニシヤ出版、2021年4月

[参考2]

トンデモ本シリーズ他

- 001 ト学会編『トンデモ本の世界』、洋泉社、1995年5月

- 002 ト学会編『トンデモ本の逆襲』、洋泉社、1996年4月
- 003 ト学会編『トンデモ本1999』、光文社、1999年1月
- 004 ト学会編『トンデモ本の世界R』、太田出版、2001年10月
- 005 ト学会編『トンデモ本の世界Q』、楽工社、2009年8月
- 006 ト学会編『トンデモ本の世界S』、太田出版、2004年6月
- 007 ト学会編『トンデモ本の世界T』、太田出版、2004年6月
- 008 ト学会編『トンデモ本の世界U』、楽工社、2007年10月
- 009 ト学会編『トンデモ本の世界V』、楽工社、2007年10月
- 010 ト学会編『トンデモ本の世界W』、楽工社、2009年10月
- 011 ト学会編『トンデモ本の大世界』、楽工社、2011年6月
- 012 ト学会編『トンデモ本の世界X』、楽工社、2011年7月
- 013 ト学会編『トンデモ本の新世界』、文芸社、2012年11月
- 014 ト学会編『タブーすぎるトンデモ本の世界』、サイゾー、2013年8月
- 015 ト学会編『日・中・韓 トンデモ本の世界』、サイゾー、2014年9月

【参考3】

オタク学叢書

- 001 氷川竜介『20年目のザンボット3』、オタク学叢書 v.1、太田出版、1997年8月
- 002 中島紳介・斎藤良一・永島収『イデオンという伝説』、オタク学叢書 v.2、太田出版、1998年8月
- 003 鷺巣富雄『スペクトルマン vs ライオン丸—うしおそうじとピープロの時代』、オタク学叢書 v.3、太田出版、1999年6月
- 004 岡島正晃・あさのまさひこ・中島紳介『ボトムズ・アライヴ』、オタク学叢書 v.4、太田出版、2000年8月
- 005 プロレス格闘フィギュアの会『20世紀プロレス格闘フィギュア大全』、オタク学叢書 v.5、太田出版、2000年8月
- 006 石井誠・市ヶ谷ハジメ・岡島正晃『カウボーイビバップ』、オタク学叢書 v.6、太田出版、2001年10月
- 007 西村マリ『アニパロとヤオイ』、オタク学叢書 v.7、太田出版、2002年1月
- 008 氷川竜介『フィルムとしてのガンダム』、オタク学叢書 v.8、太田出版、2002年3月
- 009 切通理作『特撮黙示録—1995・2001』、オタク学叢書 v.9、太田出版、2002年12月
- 010 あさのまさひこ編『海洋堂クロニクル—「世界最狂造形集団」の過剰で過激な戦闘哲学』、オタク叢書 v.10、太田出版、2002年11月

【参考4】

矢野経済研究所

- 001 「オタク市場の徹底研究」編集プロジェクトチーム調査・編集『2010 オタク市場徹底研究』、矢野経済研究所、2010年10月
- 002 「クール・ジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究」編集プロジェクトチーム調査・編集『2011 クールジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究』、矢野経済研究所、2011年10月
- 003 「クール・ジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究」編集プロジェクトチーム調査・編集『2012 クールジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究』、矢野経済研究所、2012年10月
- 004 「クール・ジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究」編集プロジェクトチーム調査・編集『2014 クールジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究』、矢野経済研究所、2014年10月
- 005 「クール・ジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究」編集プロジェクトチーム調査・編集『2015 クールジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究』、矢野経済研究所、2015年10月
- 006 「クール・ジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究」編集プロジェクトチーム調査・編集『2016 クールジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究』、矢野経済研究所、2016年10月
- 007 「クール・ジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究」編集プロジェクトチーム調査・編集『2017 クールジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究』、矢野経済研究所、2017年10月
- 008 「クール・ジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究」編集プロジェクトチーム調査・編集『2018 クールジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究 2018』、矢野経済研究所、2018年11月
- 009 「クール・ジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究」編集プロジェクトチーム調査・編集『2019 クールジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究』、矢野経済研究所、2019年9月
- 010 「クール・ジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究」編集プロジェクトチーム調査・編集『2020 クールジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究』、矢野経済研究所、2020年9月
- 011 「クール・ジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究」編集プロジェクトチーム調査・編集『2021 クールジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究』、矢野経済研究所、2021年9月

※2013年版は確認できなかった。